

文部科学省「再生医療の実現化プロジェクト」
ヒト多能性幹細胞の培養・解析のレクチャーシリーズ 第3回

〈主催〉理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター、文部科学省
〈共催〉日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

日時

2010年1月19日(火) 12:30開場 13:00～17:00

会場

理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター
C棟1階オーディトリウム

参加費無料

FACSによる細胞分離・解析技術

幹細胞の医療・産業応用に向けてのCutting Edgeと課題

ES/iPS細胞や体性幹細胞を用いた細胞治療の実用面で大きな課題として残っているのは、安全で確実な細胞純化と品質管理の技術です。今回は、それらに対するFACSの利用を米国の開発例も紹介し、具体的に検討を行うとともに、国内での先導的な研究のお話から今後の方向性を一緒に考えたいと思います。

実用化に向けた幹細胞の分離・解析の課題

笹井 芳樹 理研CDB 細胞分化・器官発生研究グループ

FACSの細胞治療への応用と臨床試験：米国での開発を例に

John F Dunne BD Biosciences, Associate Scientific Director

臨床グレードの細胞分離を目指したハイエンド設計：InFluxを例に

縄吉 秀明 BD Biosciences

造血幹細胞を維持するニッチ(niche)とケモカインCXCL12

長澤 丘司 京都大学 再生医科学研究所 生体システム制御学分野

遺伝性筋疾患に対する幹細胞移植治療研究の進展

武田 伸一 国立精神・神経センター 神経研究所 遺伝子疾患治療研究部

FACSによる細胞機能解析と品質管理

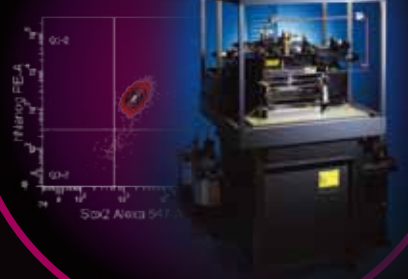
・細胞内因子の定量化のコツ(リン酸化・転写因子など)

廣瀬 弥保 BD Biosciences

・hES細胞の解析実例とコツ(未分化性・細胞死・細胞周期)

大串 雅俊 理研CDB ヒト幹細胞研究支援・開発室

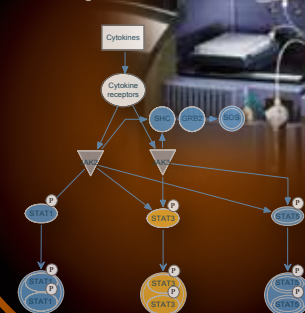
Sorting



Culture



Analysis



参加申し込み

下記ウェブサイトをご参照の上、オンラインにてお申し込みください。
講演会場の席数には限りがあり、定員に達し次第受付を終了させていただきますので、あらかじめご了承ください。

<http://www.cdb.riken.jp/facs2010/>

お問い合わせ

理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター 研究推進部 学術集会担当
Tel. 078-306-3010 E-Mail. cdb-mtg@cdb.riken.jp

日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 BD バイオサイエンス
Tel. 0120-4890-77 E-Mail. tech_cell@bd.com